

数学クォータ科目「数学」第6回 (1/4)

行列に関する補遺 (転置行列)

佐藤 弘康 / 日本工業大学 共通教育学群

行列の転置

- 行列 A の行と列を入れ替えた行列を「 A の転置行列」といい、 tA と書く.

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix} \xrightarrow{\text{転置}} {}^tA = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{21} & \cdots & a_{m1} \\ a_{12} & a_{22} & \cdots & a_{m2} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ a_{1n} & a_{2n} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix}$$

- tA の第 i 行は, A の第 i 列.
- tA の第 j 列は, A の第 j 行.
- A が $m \times n$ 型ならば, tA は $n \times m$ 型.

- ベクトル $a = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$, $b = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ に対し,

それらの内積は $\langle a, b \rangle = a_1b_1 + a_2b_2 = {}^t a b$ と表すことができる.

特別な行列 [3] 対称行列・交代行列

- ${}^tA = A$ を満たす正方行列 A を対称行列という。

例)
$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & -1 & 4 \\ 3 & 4 & -2 \end{pmatrix}$$

- ${}^tA = -A$ を満たす正方行列 A を交代行列という。

例)
$$\begin{pmatrix} 0 & -2 & 3 \\ 2 & 0 & 4 \\ -3 & -4 & 0 \end{pmatrix}$$

- 交代行列の対角成分はすべて 0 である。
- どんな行列も対称行列と交代行列の和として表すことができる。

- $A = \frac{1}{2}(A + {}^tA) + \frac{1}{2}(A - {}^tA)$

特別な行列 [4] 三角行列

- $i < j$ ならば, $a_{ij} = 0$ を満たす正方行列 $A = (a_{ij})$ を **下三角行列** という.
- $i > j$ ならば, $a_{ij} = 0$ を満たす正方行列 $A = (a_{ij})$ を **上三角行列** という.

$$\begin{pmatrix} a_{11} & 0 & \cdots & 0 \\ a_{21} & a_{22} & \ddots & \vdots \\ \vdots & \vdots & \ddots & 0 \\ a_{n1} & a_{n2} & \cdots & a_{nn} \end{pmatrix}$$

下三角行列

$$\begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ 0 & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \ddots & \ddots & \vdots \\ 0 & \cdots & 0 & a_{nn} \end{pmatrix}$$

上三角行列

- 注**
- 下三角行列の転置は, 上三角行列である.
また, 上三角行列の転置は, 下三角行列である.
 - 下三角行列と上三角行列を合わせて, **三角行列** という.

特別な行列 [5] 直交行列

- ${}^tAA = E$ を満たす正方行列 A を直交行列という.

例)
$$\begin{pmatrix} \frac{2}{\sqrt{6}} & -\frac{1}{\sqrt{3}} & 0 \\ \frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{3}} & -\frac{1}{\sqrt{2}} \\ \frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{3}} & \frac{1}{\sqrt{2}} \end{pmatrix}$$

- 直交行列の定義式は、「 ${}^tA = A^{-1}$ が成り立つこと」と同値である.
- このことから、直交行列は正則行列であることがわかる.

特別な行列 [5] 直交行列

- ${}^tAA = E$ を満たす正方行列 A をなぜ **直交** 行列というのだろうか。
 - 一般に, A の列を第 1 列から a_1, a_2, \dots とおくと, tAA の (i, j) 成分 は, a_i と a_j の **内積** $\langle a_i, a_j \rangle$ である.

例) 3 次正方行列 $A = \begin{pmatrix} a_1 & a_2 & a_3 \end{pmatrix}$ の場合,

$${}^tAA = \begin{pmatrix} {}^ta_1 \\ {}^ta_2 \\ {}^ta_3 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a_1 & a_2 & a_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} {}^ta_1a_1 & {}^ta_1a_2 & {}^ta_1a_3 \\ {}^ta_2a_1 & {}^ta_2a_2 & {}^ta_2a_3 \\ {}^ta_3a_1 & {}^ta_3a_2 & {}^ta_3a_3 \end{pmatrix}$$

- **直交行列** は, ${}^tAA = E$ を満たすため, A を構成する **列ベクトル** は,
$$\langle a_i, a_j \rangle = {}^ta_ia_j = \begin{cases} 1 & (i = j) \\ 0 & (i \neq j) \end{cases} \quad \text{を満たす.}$$
- つまり, a_1, a_2, \dots は, **すべて長さが 1** で, **互いに直交する** ベクトルである (このようなベクトルの集まりを **正規直交基** という) .

今回（第6回講義）のまとめ

- (1) ● 行列の転置（**転置行列**）
(対称行列, 交代行列, 三角行列, 直交行列)

- (2) ● 3つの基本行列
● 基本行列の積と行列の基本変形の関係

- (3) ● 2次正方行列の行列式
● 3次正方行列の行列式（サラスの公式）
● 行列 A が正則であることと, $|A| \neq 0$ が同値であること.

- (4) ● 行列式の基本性質
● 行列の基本変形と行列式の関係